

学校の

現場から



共に100年以上の歴史をもつ立葉小学校と塩草小学校が統合し、塩草立葉小学校となって6年目を迎えました。

平成25(2013)年

春、立葉小の閉校・塩草小との統合が決まりました。当時、立葉小の教務主任だった私は「両校の教育活動のすり合わせ」と「両校児童の交流活動の推進」に取り組みしました。統合まで1年足らずでしたが、両校の良いところを残し、生かしつつ、子どもたちが習春から新しい環境へ溶け込めるように取り組みを進めました。「両校の教育活動のすり合わせ」では、集団

登校の体制、人権教育や特別活動などの在り方、校外学習の進め方、立葉

小で取り組まれていた太鼓学習の継続など多くのテーマについて、両校の教職員間で話し合いをもちました。

「両校児童の交流活動」は、全校単位で2回、学年単位で1回行いました。全校交流の1回目は、塩草小の全児童180人が立葉小に向きました。両校のたてわり班を合体させて、ゲームを通しての交流でした。当時、全児童74人だった立葉小の児童は、約250人が一堂に会するのを初めて体験し、驚きつつも交流を楽しんでいたのが印象に残っています。

平成26(2014)年4月。開校式では、これから共に学んでいく喜びを込めて飛ばした風船が、

統合6年目を迎えて

塩草立葉小学校

高く舞い上がったのを覚えています。私は4年生の担任として、両地域の子ども同士が早くなじめるよう腐心しましたが、子どもたちがなじむのに時間はかかりませんでした。誰が塩草で、誰が立葉でという会話は、少なくとも当時の4年生についてはあまりなかったように思います。

その後、児童数が年々増加していきました。それに伴い、単学級だった時代の取り組みを見直す必要が出てきました。再び教務主任となった私は、学校規模に見合った教育内容の整理・確立をテーマとして、教職員、PTA、地域の協力を得ながら、見直しを進めてきました。日々の取り組みや

行事をより良いものにしていくため、毎年のように教職員間で議論し、改出し合ったからこそ、で

も教職員の「子どもたちのためにより良い環境を作りたい」という思いをきたことだと思っています。統合6年目、児童数は370人を超えました。試行錯誤しながらも、思

いを出し合ったことで、塩草立葉小学校としての基盤ができています。教職員間の風通しが良い学校は、子どもを明るく優しく育てることができる。そう信じて、今後も励んでいこうと思います。(塩草立葉小学校 谷山勝彦)